

No. 857

# カセット時代

録音機にカセット・テープを入れ、ポンとボタンを押すと、テレビでおなじみの「樅の木は残った」の一節が流れてくる。これまでの「小説は読む」常識は破られ、「聞く小説」の新しい世界が出現した。カセット小説である。一方、「赤ちゃんの心の栄養に音楽を」のキャッチフレーズで登場したのが「保育音楽」オルゴール。現代の騒々しい世の中では0才から赤ちゃんの情操教育が必要と、ラームス、モーツアルトなど名曲を選んでカセット式オルゴールにしたもの。だが、どんなにすばらしいカセットよりも本当はママの声が一番いいとか――。

## 六月の詩

# カエル

140

スカラム  
糠雨が降り続く。長く長く静かに静かに。雨足の中に響いて来る。

ミテルテルボウズ テルボウズ アシタテンキニ……子供の願いは遠足か。夏の夜の祭りの笛が子供の耳にとどいているのだろうか。田植えの化粧を済ませた水田に、一匹の蛙が天を仰いでいる。ギョッギョッと鳴く蛙。降りやまない六月の雨の中に、蛙の対話が聞こえ、静かな大地の息吹きが聞こえ六月の詩が聞こえている。

# 梅雨の交通安全対策

286

雨のハイウェーを時速100キロのスピードで走る自動車、一見そう快な感じですが、スリップによる事故もウナギ登りに増えています。

特に最近問題になってきたハイドロブレーニング現象は、タイヤの回転が早くなると、道路とタイヤの間の水を排除できなくなり、タイヤが水の上に浮いた状態になるのです。

高速時における雨中走行は危険がいっぱい。タイヤの空気圧や、ミゾの摩滅したタイヤは、事故に直接結びつくだけに、気をつけたいものです。